

平成30年度第3回四万十町文化的施設検討委員会会議録

(平成30年度第2回街歩きワークショップと同時開催)

日 時 平成30年9月24日(月) 13:30～

会 場 四万十町役場本庁 東庁舎1階 多目的大ホール

出席委員 内田純一、池田十三生、林 一将、山本哲資、高垣恵一、
川添節子、下元洋子、酒井紀子、刈谷明子、友永純子、中平浩太

欠席委員 谷口和史、林 伸一、田邊法人、青木香奈子

事 務 局 川上哲男教育長、熊谷敏郎教育次長

生涯学習課(林瑞穂課長、味元伸二郎副課長)

図書館・美術館(森山典将主幹、長木千葉美、谷脇八代美、山口香、山地順子、井上千紗)

1 開 会

(事務局)

皆さん、こんにちは。

ただ今から、文化的施設検討委員会と合わせて、街歩きワークショップの実践編を開催します。

最初に町長から挨拶をお願いしたいと思います。

(中尾町長)

皆さん、改めましてこんにちは。四万十町長の中尾でございます。

今日は第3回文化的施設検討委員会の開催にあたりまして、皆さん大変ご多忙の方ばかりですが、今日はこうしてお越しいただきまして、前段のワークショップ、後段には街歩きを予定しております。

この委員会の皆様には本当に、これまでのどの会議においても、積極的、建設的なご意見を頂けましたことを感謝申し上げます。

他にもお見かけした方があり、町政に関わる全般的な部分でご指導いただいている方ばかりですので、改めて感謝を申し上げます。

この第3回目の9月定例会におきまして、場所の位置づけ・設定ということで、議会でも提案させていただき、折り入って常任委員会から許可を頂いたところです。

単に町内の図書館議論だけでなく、今後の私の思いとすれば、やはりこの際にしっかり

歴史的な資産になるような、図書機能に付加した機能がある取り組みがある、そういったことがこの基本構想の段階で整備されると思います。

前段の話題でも話しておりましたが、私も昭和 29 年生まれでして、昭和の動きはある程度理解しております。整理しますと、昭和 29 年は小ぶりというか、21 世紀を愛する文化ということで、大きく分けるとそういう文化だと思います。やはりこの国の文化の中でいいことは利便性が高いことがあります、色んな弊害が起こっております。

日本本来の取り組みの中で、日本的な価値を創造するような取り組みの図書館がしっかり建設されて、町内外様々にアピールできる、さらには日経つごとに歴史的な資産になるようなものになるよう、私自身、考えております。

そういったことを考えた時に、半平や岩本寺であったり、旧庁舎跡地ですので町内に通じる幹線の通路であったり、そういったことで、旧庁舎の跡地を最有力候補として議会でも説明し、理解を頂いております。これから整備していく段階で不適當となれば考え直していかねばと思いますが、しっかり町に波及効果が出るような施設になればと祈念します。

委員の皆さん方にはそういった要件要因の中で今後様々にご検討いただければと思います。しっかりご検討いただいて、そののちに財源は町長が考えるという話になると思いますので、その辺は様々で、町財源も含めて確保していければと思います。

今後の基本構想の中で、来年からの基本計画で私が一番気にしておりますのは、末代まで必要以上の負担をかけたくないという思いでいっぱいであることです。イニシャルコストについては一定緩和できますので、それも含めて後は、第二弾の構想に入った折には、皆様にご提言、ご助言いただいて、しっかりした計画が出来上がればと思っております。

今日はぜひ前段のお話と後段の街歩きの中で話し合い、色々な思いを出していただけたらと思います。

まずはこの文化的施設を整備する。第二弾として今後、大正、十和へも繋がるような取り組みをしていきたいと考えていますので、皆さん方に一層のご協力をお願いいたします。

今日の検討委員会にあたって簡単でございますが、開会とお礼の挨拶に代えさせていただきます。本日は本当にありがとうございます。

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、四万十町文化的施設検討委員会の内田委員長よりご挨拶を頂きたいと思いません。

(内田委員長)

失礼します。委員長をさせていただいております内田です。

先日も中高校生のワークショップがございました。

検討委員会ではこんなふうに考えているわけですね。四万十町にお住まいの赤ちゃんからお年寄りまで全ての人の意見を伺いながら、検討を進められればいいな、と。「全ての人」は現実的に難しいかもしれませんが、できるだけ多くの人の自由な意見を反映させて構想したいという趣旨で、昨日もワークショップを開きました。

本日もこのようにたくさん集まっていただきありがとうございます。

本日のテーマ「街歩き」ですが、文化的施設を作るのになぜ街歩きなのか？

検討委員会では、施設づくりと町や地域づくりは同じものと考えているわけですね。施設だけを作ったところで町と合わなければ上手く機能しないでしょうし、町にとっても結果的に持続しないものになる。その考えの下、今日こういう機会を作っていただきました。詳しくはのちほど岡本さんたちから説明があるでしょうが、今日はそういう機会です。自由に町を歩いて、そこから感じたことや考えたことを、あまり施設施設と拘らずに自由に出していただき、その中から発見したことを構想づくり、検討委員会に反映させたいと考えています。

あと半日になりますが、ご協力をお願いします。

(事務局)

内田委員長、ありがとうございました。

それではただ今から街歩きワークショップを始めます。

ARG にマイクを渡します。お願いします。

2 議 事

(ARG 下吹越)

皆さん、こんにちは。

今日は大勢の人にお集まりいただき感動しております。一日よろしくお願いします。

まずは簡単に我々の自己紹介をさせていただきます。

我々はアカデミック・リソース・ガイドという横浜にある会社です。我々が何をしている会社かというと、図書館そのものや図書館等の文化的施設をプロデュースするお手伝いをしています。どういうことかということ、今日みたいに住民の皆さんと一緒に、新しい文化施設ではどんなものがあつたらいいか、どんなサービスがあつたらいいかと、施設の内側、ソフトを考えていく仕事をしております。

私は今日の司会を担当します、下吹越と申します。鹿児島出身です。

今日は皆さんと一緒に街歩きを担当する弊社のスタッフを紹介します。

(ARG 岡本)

アカデミック・リソース・ガイド代表の岡本と申します。

私も高知でお仕事をさせていただき大変光栄です。私の恩師が政治思想史の研究者なんですが、恩師の研究テーマが中江兆民と植木枝盛で、中江兆民の研究者としては有名な方です。まさに「自由は土佐の山間から」という言葉がありますが、そういうゆかりの地で仕事ができる、特に図書館を作るというのは民主主義そのものなので、いい勉強になると思っています。

どうぞよろしく願いいたします。

(ARG 李)

アカデミック・リソース・ガイドの李と申します。

私はデザインを担当しています。デザインというと見た目を綺麗にするとか設計するとか思われると思うんですが、うちのデザインは、仕組みを作ったり、皆さん住民との行政の間だったりとか。あとは、使う時と作る時。そういったことが多くの場合、バラバラになっていることが多いんです。そういったものを繋ぐ観点から仕組み作りをデザインと呼んでいます。

皆さん流れで高知とのゆかりの話で行ってますが、私は島根県出雲市の生まれ育ちであまり高知と繋がりが無いので、デザインの話のほうを。ただ高知には仕事で20代から何度か訪れたことがあります。四万十町は今回が初めてですが、これを機会に皆さんと一緒にになって施設づくりのサポートができればと思っております。

今日はよろしく願いいたします。

(ARG 下吹越)

ストラップの色で分かると思いますが、岡本が1班を、李が2班を、わたくし下吹越は3班を担当します。どうぞよろしく願いいたします。

では今日やるワークショップの内容について簡単にお話しさせていただきます。

内田先生からお話があったまさにその通りで、我々も全国で図書館を作る時は、町と繋がって愛される施設にならなければ施設の意味が全くないと考えます。ですので今回、街歩きを通して、町から考え、町と繋がる文化的施設づくりを皆さんと一緒にやっていきたいと思っています。

なぜワークショップという形をするかという、こういう場を設けることによって、文化的施設づくりが町だけのことでなく、私たちも関わって一緒に作っていくんだという意識を共有する目的があります。

こういう施設づくりの場で、ワークショップなど設けずに行政の内側だけで施設づくり

を進めてしまうケースは残念ながら全国に多数あります。ですから皆さんと体験型のワークショップをすることで、「私たちの問題なんだ」「私たちが作っていくんだ」という、「私たちごと化」されることがワークショップの大きな目的です。

皆さんと今日町を歩く中で、いつも通っている道が意識を変えるだけで、「こんなものがあったのか」「こんな場所があったのか」「こんな課題があったんだ」ということを皆さんで共有できると思います。

ぜひ「私たちの問題なんだ」というところを共有しながら、皆さんと町を歩いていきたいと思います。

「固定観念」、「思い込みを揺さぶる」という目的もワークショップにはあります。

やはり「文化的施設」や「図書館」「美術館」という言葉を聞くと、「本がいっぱいある場所」とか「絵がいっぱい飾ってあって静かに過ごさなきゃいけない場所」という従来の施設のイメージに引っ張られてしまうことがいっぱいあると思います。なのでワークショップをすることで、20代から80代の方までお越しいただきましたので、様々な年代・立場の方々と共同で作業することによって、「そんな図書館／美術館もアリだね!」「こんな文化的施設が四万十町にあったら魅力的になるよね!」ということを手自由に考えて発想していくことで、このワークショップを位置付けていきたいと思っています。

ですので、このワークショップを通して、「私たち」がまさに主役となって、図書館美術館、さらには町全体を自分たちの力で、どうやったらもっと魅力的に、楽しくできるのかを考えるきっかけにさせていただければと思っています。

色々お話ししましたが、会議室にこもって考えるよりは、街歩きをしながら町との関係、施設の在り方を考えていく場となります。

以上のことがワークショップの特徴としてまとまっております。今回は町を実際に歩きますので、特に身体性——実際に体を動かして、目で見て、触ったり感じたりすることが非常に特徴となるかと思っています。

街歩きを通して町の魅力や課題を見つけ、文化的施設への役割や期待をみんなで考えていきましょう。

今回の街歩きワークショップですが、これだけで完結するわけではありません。これから施設が建つまで、施設が建ったあとも、皆さんにはこの文化的施設と継続的に関わり合いを持ってほしいと思います。ということで、街歩きワークショップの前の段階として、第一回の七夕ワークショップ、昨日の中高生ワークショップを行いました。そちらものちほど共有の時間を設けますので、今まで開催されたワークショップではどんなことが話されたのかをぜひご覧になって、そのあとで町を歩いていただければと思います。

【七夕ワークショップの短冊と中高生ワークショップの地図の作業詳細を説明】

【七夕の短冊と中高生の地図書き込みを参加者が見学】

これからのざっくりした流れを説明します。

このあと自己紹介を兼ねたオリエンテーションをやっていたあとに、街歩きのエリアとテーマを決めていただく時間を設けます。

エリアを考える時用に、皆さんの机に「四万十くぼかわ自転車の地図」をお配りしました。ぜひこちらの地図を持って街歩きしていただけたらと思います。どこに行ってみたいかのちほどテーマと合わせて考えてみましょう。

今回は四万十町の文化的施設ということで、本やアートだけではなくもっと、四万十町にとっての文化とは何かを広く考えていきたいと思います。ですので街歩きのテーマを六つこちらに決めています。「本」「アート」「音楽」「歴史」「自然」「人」の中から、グループで相談して二つのテーマを絞って決めてください。そして、このテーマであればここここは行きたいよね、とマップを見ながらコースを考えてください。

決めましたらさっそく街歩きに入ります。1時間を取っていますが、テーマに関連することをベースに、気づいたことをメモしたりスマホで写真を撮ったりしても構いません。ポラロイドカメラを我々のほうで準備しておりますので、ぜひ帰って来てから出力してやっていきたいと思います。これはのちほどカメラ担当を決めていただきますので、その方に詳しく（扱い方を）ご説明しますね。

先ほど町長からもありましたように最有力候補地が旧役場跡とのことで、古民家カフェ半平とも大変近い。ということで今回は半平さんのご厚意で、街歩きの休憩タイムを半平さんで過ごさせてもらうことになりました。

【1～3班の古民家カフェ半平の使用時間とコースを伝達】

半平さんで過ごしながら、この横に文化的施設があったらどんなふうに連携すればいいのか考えていただければと思います。

そして街歩きから戻ってきて、気がついたことを付箋に書きながら、また写真を出しながら、四万十町の地図に付箋を貼ってグループで意見をまとめていくという流れになります。

それではさっそくグループで街歩きのテーマとエリアを考えていこうと思います。各ファシリテーターが付きますので、ぜひ皆さんと一緒に考えていきましょう。

【グループで席を組み換え。オリエンテーション～街歩きに出発】

【街歩き終了。各班が役場に帰還して、マップ作成】

(ARG 下吹越)

ではそろそろ準備が出来た班から発表に移っていききたいと思います。

まずは一番準備が早かった2班から発表をお願いします。

(2 班代表①)

2 班です。2 班は「人」と「自然」とテーマに街歩きをしました。

具体的には、総河内神社に行ってそこから瀧（中華料理店）を通過して、吉見町の通りに入って、岩本寺の表参道からぐるーっと半平に回って戻ってくるというコースです。その途中ですが一か所、道路から吉見川に下りて川沿いのテラスを歩いてくる形で戻ってきました。

まず「自然」から言いますと、今回の文化的施設の周りに吉見川という川があります。それから商店街があって、前に茂串山という山がある。周りに結構自然があって、観光的にもあるいは町の人にとっても楽しめるスポットがたくさんある。その各エリアを一つ一つ整備して、文化的施設を核に繋いでいったら、四万十町はもっと楽しい場所になるんじゃないかなという話をしました。

(2 班代表②)

「人」についてお話しさせていただきます。

今日グループで歩きながら、具体的に町内の誰かから話を聞いたわけではないのですが、グループ内に歴史地理に詳しい方々がたくさんいて、歩いている内にお話を聞いて知ることたくさんありました。

あと、お遍路道を歩いて、お遍路さんが車で通る場面もありました。

商店街の中に小さなお店がたくさんあって、ずっとそこでご商売されてきた方もいました。

人を介して色々得るものや知ることがたくさんあると感じました。

今日は街歩きでピンポイントにこの町のこの部分を歩きましたが、四万十町の文化的施設なので、背景にはここにいない方もたくさんいます。エリアが離れて大正地域、十和地域までたくさん人がいるので、そういう人たちが誰でも気軽に、平等にサービスを受けられるような場所づくりが必要だと考える、すごくいい機会になりました。

ここに大人たちだけでなく子どもたちにも、文化なり知識なり伝えていけるような場所づくりにしていけたらいいと感じました。

(ARG 下吹越)

2 班は「人」「自然」というテーマで街歩きをしていただきました。

まさに最後におっしゃった、今この場に関わっていない方の顔まで見て考えていくのは非常に重要なポイントですよね。ありがとうございます。

続いて、1 班の皆さん。準備は大丈夫でしょうか？

では 1 班の発表をお願いいたします。

(1 班代表①)

我々は役場を出まして半平でお茶を一服してから、岩本寺をちょっと覗きまして、旧の遍路道を通って美馬旅館の前を抜けて、橋を渡って吉見町を通りまして、吉見町の端っこから駅前に下りて役場に戻ってくるコースを取りました。

一番気になったのが、町民の方にほとんど会わない、すれ違わない、会ってもお年寄り、子どもがいない。

それと外の方の目から見て、一昔前の昭和の建物が多く残っているという印象が非常にあるそうです。半平も含めてレトロな感じの建物は吉見町にもまだ結構残ってますし、未だにタバコだけ売っている店もありますので、そういうのは観光の要素にはなる。

けれども、古い家も増えてきています。あそこは通学路でもありますので、看板の落ちそうな家や軒がへたってきている家もありました。やっぱりシャッターも増えてきてますので、そういう点はどう活用していくかによりますが、早急に解体なり耐震なりをやらないと危なくないかという部分ですね。

我々は「アート」と「歴史」と、あと「音楽」もちょこっと気にかけて見て回ってみました。お寺に行くと読経の声なんかも音楽的要素がありますし、電車の通る音なんかも結構耳に入ってくるので、そういうところも売り物にしていけるんじゃないかなど。あとは昔、「喫茶・淳」さんのうしろの「ヤング」、今は「どなあ」でジャズのコンサートもやっていますんで、音楽なりアートなりが町の中に根付いてますんで、そこを活用していけたらいいと感じました。

(1 班代表②)

今までの話をひっくり返す感じですが、私は十和地域から来ていて、こちらの町である必要があるのかとすごく思っています。

中学校と高校はこちらにあるので、利用者を増やす目線で言うところに近いほうがいいんじゃないかとすごく思っています。今は中高生の利用が 10 名くらいになっているそうなので、こっちに出来ると学校の授業で連携して使えるという利点もあると思います。

こっち（窪川地域）も良かったんですが、旧庁舎の裏山に「ミニ 88 か所」があるらしくて、そことそのお寺の音を合わせてやると面白いという話もありましたが、それは大人目線の話であって、利用する中高生のことを考えると、こっち（十和地域）にあるという利点もあると思うので、合わせてもう一度ちゃんと考えていただけたら嬉しいと思っています。

(ARG 下吹越)

実際に今日、大正や十和から参加してくださってる方々もいらっしゃるので、それぞれ

の地域からの意見も大事ですよ。はい、ありがとうございます。

では最後になりましたが、3班の発表に移りたいと思います。よろしくお願いします。

(3班代表①)

3班は役場を出て坂を上がりまして、戦前に谷干城さんの銅像があったという軍人墓地へ行きまして、細い道に入ってJRのアーチ型の橋を渡って線路の向こう側に出ました。そこから遍路道に入りまして、遍路道の手の形が付いた石碑などを見て、水口山の前を通過して吉見町の商店街に入っていました。そのまま下って進んでいきまして岩本寺に突き当たり、その前に喫茶・淳なんかも通った上で、半平さんに行きました。

半平さんで美味しいお菓子とお茶を頂いてから、文化的施設の有力候補地といつの間にか決まっているらしい旧役場跡地を眺めまして、戻ってきて五叉路に出て「あたりや」の前を通過して役場に戻ってきた。というようなコースでした。

テーマは「歴史」と「人」。実際は池田十三生さんと高垣先生の街歩きガイドをしていただきながら、色んな歴史を学びつつ通りました。

石碑や銅像の話もあれば、ここにスーパーがあった、映画館があった、桜並木のある桜町と呼ばれていた場所があった、そういう話も聞かせてもらいました。

文化的施設の話はほとんど出なかったんですが、帰ってきて、そういう歴史ある魅力ある町をどのように伝えていくかという話をしました。それこそ街歩きガイドでユーモアを交えて色んなお話を語ったので、「街歩きガイド」というコンテンツと施設との繋がりが出来たらいいね、と。昔の四万十町を知ることができる機会。昔といっても、文化的な成り立ちや、高南台地がどうして台地になったのかという地質学的な何年も前からの話も含めて知れる場所であつたらいいとか。

自分がちょっと意見を出したんですが、町のジオラマがあつて、遍路道はこういうルートなんだよとか、ここには銅像があるんだよという、ボタンを押したら十三生さんの声でガイドが流れるというものがあつたらいいなど。

もちろん窪川だけでなく大正も十和も、興津だって志和だってと言い出すとめちゃくちゃ広大になりますが、そういうものがあつたらいいとか。

さらにそれを受けて、そういうのをVRで体験できるものがあつたら面白いんじゃないかという話もありました。

町を巡って、岩本寺もだけど、小さな神社もあるのでそういうところを綺麗に整備して、それを人に紹介できるような、町の文化を伝えていけるような場所がいいねと。各地の花取り踊りなんかも伝えていきたいであるとか、そういう話も出ました。

やっぱり半平さんで美味しいお菓子を頂きながら本を読むスペースや機会が欲しいねという話がありました。

ちょっとまとまりませんが、3班ではこういう話をしました。ありがとうございました。

(ARG 下吹越)

やっぱり3班は町に大変詳しいお二人に参加していただいたので、街歩きガイドと文化的施設が繋がったらどんなふうに面白いのかなという話がくり広げられたのが印象的でした。ありがとうございます。

それでは、各班違ったテーマで町を歩いてみると、色々な魅力や課題が浮かび上がってきたかと思います。こういった内容を踏まえながら文化的施設はどんなふうに在ればいいのか検討を継続して参ります。

窪川だけではなく他の地域とどう繋がっていくかということも、今日皆さんから出していただいた意見を元に検討を続けていけたらと思います。

今日は本当に、皆さんと街歩きができて私自身も四万十町のことを少し知ることができたのですごく感動しています。皆さんが出してくれた意見を検討し続けていきますし、これで終わりではありません。今皆さんと始めたことが第一歩ですので、ぜひ今後も、四万十町の文化的施設をどうやっていったらいいか、皆さんと一緒に考えていけたらいいと思います。よろしく願いいたします。

次回についてです。第4回のワークショップを開催します。こちらにもぜひお越しただければと思います。

この辺り、教育委員会の皆さんからご紹介いただけたらと思いますが……

(ARG 岡本)

先ほど李が言った「これで終わりじゃないですよ」は、今日やったことを踏まえて、次回さらにワークをする、つまりこれで完成版ではないんです。

(ARG 下吹越)

そうですね。皆さんのお手元に今お配りしているものが次のステップとして、では新しい文化的施設で皆さんの暮らしや生活からどんなストーリーが生まれるのかを考えるワークショップを行います。10月14日(日)に開催予定です。ぜひ皆さん、お越しただければと思います。

このマップを元に、さらに文化的施設の在り方について詳しく考えていきますので、ぜひ続けてご参加いただければと思います。お友達やご家族を誘ってご参加ください。

では最後に講評ということでご挨拶を頂きたいと思います。

(内田委員長)

ありがとうございました。

今日の冒頭で、文化的施設づくりは町づくりでもあり地域づくりでもあるという話を致

しましたが、歩きながら皆さん「こんな町になったらいいな」「こういう地域が必要だよなあ」というようなことを感じられたと思うんですね。それを原点にしながら文化的施設をどう作っていくかが非常に大切なところだと思っております、今日はその一端が出来たと思っております。

みんなにとって、みんなの幸せになるような文化的施設を作っていきたいと思っております。

今日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

(ARG 岡本)

ありがとうございました。

内田先生には昨日の中高生ワークショップにも来ていただきました。てっきり泊まられているのかと思えば、「一度高知市に帰ってまた明日来ます」と。二日間も四万十町に駆けつけてくださって本当に感謝しております。

教育長にご講評いただく前に私からご挨拶ですが、講評というよりは次回のことをもう少し詳しく説明しておきたいと思います。

次回に行くのは、今日行った街歩きとマップ作りに基づいて、新しい文化的施設が実現したら、その何年後かにその場がどんなふうに使われているのか。皆さんがどう過ごしているのか。皆さんのご家族などがその場をどういうふうに使っているのか。それを空想し、想像しながら、どんな未来を私たちは手にしたいのかということを考えていきます。

これは別府市の例ですが、ストーリーがビジュアルで表現されている。例えば子どもがいる仕事帰りのサラリーマンが立ち寄ってこんなふうにご利用している。こういったストーリーを創っていくわけです。

今回は皆さん一人一人にこのストーリーを書いていただきます。自分が考える文化的施設はこう在ってほしいとね。

例えば今日のこちらの1班では場所の話が出ましたが、重要なのは場所じゃないんです。その総集編においてどのような活動が成されているか。その未来を予想、想像しながら肉付けしていくのが次回の作業です。

それが決まると何が決まるかというと、皆さんの「こういう暮らしを得たいんだ」ということが明確になってくれば、では文化的施設にはどのような機能が必要なのが具体的に分かってくるわけです。

それが次回やりたいことですね。

私からは以上ですが、全然話し足りない、消化不良だった、もっとここがやりたかったとかあると思います。それでいいんです。こういう場ですごい満足感があつたら終わりです。それはまずいです。施設が出来るまでまだかなりの時間がかかります。実際は多くのプロセスがあつて、なかなか進まないと思われることもあると思います。ですので息を長く続けることなんですね。確かに一回一回ゴールを持つのはいいことですが、一回一回課

題に期待する必要はありません。こういう努力をコツコツコツ積み上げていくと、ある時、皆さんにとって理想の未来をもたらしてくれる文化的施設が目の前に現れる、そのように思います。

あとは事務局からの説明を先に入れてから。

(事務局)

今回は10月14日13:30からです。皆さんまた、この続きでもありますのでぜひとも参加をお願いします。

それと、今回と同じような形で検討委員会についてもワークショップ形式で住民の皆さんと一緒にやらせていただくということで、申し訳ありませんが案内文書をこの場で手渡しさせていただきますので、持ち帰っていただいて10月14日に参加のほどをお願いします。

事務局からは以上です。

(ARG 岡本)

では教育長から最後に講評とご挨拶を頂戴したいと思います。

(教育長)

皆さん、今日はお休みのところをこうしてお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

文化的施設について検討ということで動いているわけですが、いずれにしても先を見据えて、図書館・美術館・郷土資料館を合わせた施設に向けて進んで動いていることは確かです。

そういった中で、今日こうして街歩きをしていただいて、色んな気づきがあったと思います。私も四万十町の窪川地区に住んでおりますが、気づかなかったことを本当にたくさん気づかせていただきました。知っているお店、子どもたちが集まるお店、大人が集まるお店など様々にありましたが、現在はちょっと寂しくなっている所もございます。

今この文化的施設が出来る中で、施設だけがあったらいいというわけではないとの話もありました。町全体で、子どもからお年寄りまでが施設を活用して、そして町民が町を活性化していく。それを大正、十和地域も含めて四万十町という町づくり、そういった中心に文化的施設があるものだと思っております。

今日はそういった意味で、大人の目線だけでなく、子どもたちの目線も含めて、皆さんしっかり町を歩いていただいて気づきの部分を出していただきました。一つ一つそういったものが形になって出てきているなど感じています。

10月14日に向けてまとめの集まりとなっていくと思います。ぜひこうした集まり、10年20年といわず先、施設が出来た時に自分たちの思い、街歩きをしたなど、そしてこう

いう案を出したことが形になっているんだと思っていただける集まり、共に考えて皆さんの思いも出しながら、町づくりという部分も考えていただきながら、文化的施設の実現に向けて力を貸していただければ有難く思います。

そういった意味で、この文化的施設を検討するに当たりまして、コーディネートを頂いております ARG の岡本代表をはじめ下吹越さん、李さん、遠くから四万十町にお越しいただきまして、また昼も夜も街歩きしていただいているようですが、本当に有難いです。今日のこういった仕組みをするに当たっては、何度も下見をしていただいて、町のことも色々知っていただいていると、本当に心強いことでございます。

それと参加した皆さん。本当にありがとうございます。

こういうことを言えるのも挨拶を含めてということになりますが、皆さんと一緒に素敵な文化的施設を作っていきましょう。力を貸していただきたいと思います。

本日の街歩きワークショップのお礼ということで、挨拶に代えさせていただきます。

本当にありがとうございました。またよろしく願いいたします。